

京都地域未来創造センター

A large, thick green circular line is positioned on the right side of the page, partially cut off by the edge. Inside the circle, the text "KIRP2022" is written in a bold, green, sans-serif font.

KIRP2022

2022 REPORT

KYOTO INSTITUTE FOR
REGIONAL PROSPECTS

京都府立大学の「知」を活かし、 地域の未来を共に創るための拠点です

これから地球と地域が直面する問題を考える際には、「展望する＝未来をデザインする」という発想が欠かせません。京都地域未来創造センター(Kyoto Institute for Regional Prospects)の「未来」は、futureではなくprospectsです。

prospectsは「前を(pro)見る(spect)→展望する」という意味があり、複数形にすることで、「可能性、将来性」、さらには「有望な人材」の意味もあります。

京都地域未来創造センターでは、本学の特徴である教職員と学生の顔の見える関係の中で培ったネットワークを活かし、地域の文化・歴史・伝統に基づく「こと」づくり、新しいテクノロジーや考えを活かした「もの」づくり、地域の生物資源などの特性評価や分析に基づく「価値」づくり、さらには公共政策と連動した新しい「社会システム」づくり、地域の課題解決を担う「ひと」づくりに至るまで、京都府の公立大学の地域連携の総合窓口として、未来を多面的に展望して、持続可能な地域づくりに貢献します。

目次

はじめ	1
2022年度について	6
調査研究	10
KIRPが取り組んだ調査研究報告	11
地域貢献型特別研究ACTR	15
人材育成	20
京都地域未来創造センター・組織体制	24

はじめに

KIRPについて

センター長

副センター長

統括マネージャー

京都府内調査研究マップ

KIRPについて

京都地域未来創造センター

京都地域未来創造センター（KIRP）は地域の未来をデザインします。

未来を多面的に展望し、**持続可能な地域づくり**を目指して活動

- 地域の文化・歴史・伝統に基づく「こと」づくり
- 新しいテクノロジーや考えを活かした「もの」づくり
- 地域の生物資源などの特性評価や分析に基づく「価値」づくり
- 公共政策と連動した新しい「社会システム」づくり
- 地域の課題解決を担う「ひと」づくり



Mission

① 人（多様な主体）② 空間（地球、国、都市と農村）③時間（環境、歴史・文化、世代）をつなぐ拠点（ハブ）として地域に貢献しています。

平素より、皆さまには当センターの良きパートナーとして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

今年度はこれまで当センターで柱としてきた事業分野を調査研究、人材育成、情報発信の3つに再構成し、いずれも地域の皆様と協働で取り組むことこそが、私たちが地域貢献活動を行っていく上でのいわば哲学であることを、改めてメンバー間で確認・共有いたしました。当センターの各事業は、本学の教職員がそれぞれの専門的な知見を地域に還元する形でやっているものですが、その“還元の仕方”については、当該地域の皆様の協力なしには本当の意味で地域貢献に資する活動とは言えないからです。

確かに大学は調査研究を通じて、地域が抱えている課題の解決に資する科学的な知見を提供できますが、実際にその解決を行うのは当該地域の人たちに他なりません。また本来、地域のことを最もよく知るのはその地域の人たちのはずです。当センターはそうした「人」づくりにも貢献できたらと、今年度も南山城村をフィールドに、私たちが「場づくりLabo」と呼ぶまちづくり人材育成プログラムを開催いたしました。まちづくりに関心はあるが、何から始めればよいのかわからない。そんな悩みを抱えながらも、わがまちの未来を少しでも明るくものにしたいという人たちのために、私たちが2年ほど前から始めた試みです。



また当センターでは、自治体職員の「人」づくりとして、2016年度から京都府内市町村職員を毎年研究員として受け入れ、これまでに精華町から3名、南丹市から1名の修了生を送り出してきましたが、今年度は京田辺市から初めての修了生が生まれました。過去3年の修了生には、派遣元自治体の地域課題の解決に資する調査研究に主体的に取り組み、その成果を研究報告書にまとめ、地元に戻元するという課題にも取り組んで頂いています。

本事業報告書では、そうした「人」づくり以外にも、今年度に行った様々な活動の成果をまとめておりますので、ぜひご覧いただければ幸いです。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

京都地域未来創造センター長 川勝健志
(公共政策学部教授)

2022年度は、年度末頃からコロナウイルス感染症による各種行動制限が徐々に緩和され始め、コロナ前の日常が戻る兆しが見えてきましたが、全体的には行動制限下での活動を余儀なくされた1年であったと感じております。そのよう中でも、京都地域未来創造センター（KIRP）では、できる活動をしっかりと行って参りました。来年度（2023年度）には社会的な行動制限はほぼ解消され、各人の判断で行動できることとなりそうで、大学でも講義、実習、調査などの実施に関しては、ほぼコロナ前の状態に戻ると予想されます。KIRPが取り組んでいる実践的な調査においては、現地に赴き、関係者の方々と対面でお話しすることでしか得られないこともたくさんあります。一方で、リモートにも多くのメリットを感じたことも事実です。双方の利点を生かしながら、今後も地域の皆様のお役に立つ貢献を続けて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



副センター長 宮藤久士
（生命環境科学研究科教授）

2022年度はこれまでの活動を引き継ぎつつも、これからのKIRPの展開につながるような「種まき」「水やり」が着実にできたのではないかと思います。特にKIRPの取り組みの柱の1つとなっている人材育成の面については南山城村を舞台とした「場づくりLabo」を開催できました。また、これまでに引き続き、調査研究の面では具体的な地域課題の解決に向けた具体的な研究や、より一般的な地域の現状に関する研究など、複数の視点から調査を進めることができました。



なお、こうした取り組みはメールマガジンやニュースレターなどで積極的に発信をおこなっています。情報発信に力を入れている点もKIRPの大きな特徴と言えるでしょう。これからもKIRPの活動にぜひご注目ください！

統括マネージャー 上杉和央
（文学部准教授）

2022年度 京都府内の研究調査実施地域

京丹後市

- 諫早准教授(文)
過疎化が進む地域における文化遺産の地域資源化に向けての実践的研究 —京丹後市久美浜町須田区からの発信—
- 岩崎雅史准教授(生)
京丹後の海の魅力あるブランディングに向けた海水浴場の調査・分析およびデジタルアーカイブ化

京丹後市

京丹後の海の魅力あるブランディングに向けた海水浴場の調査・分析およびデジタルアーカイブ化



与謝野町

- 中尾淳准教授(生)
大江山連峰の地質と地形を生かした自然循環農業の町づくり

舞鶴市/福知山市

- 東昇教授(文)
京都府北部のMALUI連携による文化資源を活かした地域づくり

福知山市

- 中村考志教授(文)
無病長寿の霊果といわれるムベ果実の食品機能性解析とそれを活用した地域おこし

京丹後市/精華町

- 板井章浩教授(生)
スマート農業を利用した鳥獣害軽減方法の確立と果樹栽培高度化技術開発

城陽市/亀岡市/舞鶴市

- 伊達修一講師(生)
京都府希少農作物が持つ有用成分を生かしたブランド化推進と商品開発

京田辺市

京田辺市「住民協働型まちづくり協議会」の在り方提案—



京田辺市

- 駒寄忠大准教授(公)
京田辺市「住民協働型まちづくり協議会」の在り方提案—

精華町

受託事業 | 時期総合計画策定支援業務



京都府域

宮津市/綾部市

●横内裕人教授(文)
由良川がつなぐ海と森の
京都一宮津市由良地区と
綾部市上林地区の文化資源
の発掘と活用ー

●古田裕三教授(生)
北山杉・京銘竹等の京木竹材の標準化
(規格化)ー伝統工芸技術継承を含めた
科学によるトップブランド化ー

●細矢憲教授(生)
府内環境を脅かす放置“京竹(きょうち
く)”, 和紙にならない“三桎(みつまた)”の
化学的利用再考

●神代圭輔准教授(生)
木材流通京都モデルの構築に向けたICT
を活用した森林資源情報の把握と流通シ
ステムの社会実装に関する研究

●板井章浩教授(生)
京都在来ブドウ品種‘聚楽’の
復活栽培に向けた技術開発と
新たな利用方法の開発

久御山町

●駒寄忠大教授(公)
「全世代・全員活躍型
『生涯活躍のまち』
(CCAC)構想」に基づく
自治会活性化の実現に向
けた「自治会活性化ビ
ジョン」を活用した自治
会の分析・調査及びICT化
を含む実施施策の検討

京都市

●石川敦雄准教授(生)
西陣織の色彩特性が認
知・行動に及ぼす潜在
的影響に関する研究:
雅色(みやびいろ)は、
良いふるまいを促進す
るか?

久御山町

受託事業 |
自治会DSカルテ
作成のための
データ分析業務



城陽市

●山口美知代教授(文)
城陽市特産物の文化的・文
学的・国際的イメージの調
査とそれを活用したプロ
モーションについての研究

●辻元人講師(生)
城陽市の花「花しょう
ぶ」の生産現場で多発し
ている土壌伝染性病害の
防除に向けた調査研究

和束町

●森田重人准教授(生)
京都府産宇治茶の安
定生産と独自性確保
に貢献する生育予測
研究と宇治茶品種の
遺伝解析

南山城村

場づくりLabo



精華町

●伊達修一講師(生)
「洛いも」の地域ブ
ランド力強化に向け
た褐変抑制・低温耐
性系統の作出および
普及戦略の構築

2022年度について

2022年度の事業を振り返ってみると、KIRPの教職員がそれぞれのプロジェクトで担ってきた役割が、案件ごとのコーディネーションから、自治体や地域団体、地域住民など、外部のステークホルダーと協働で新しい価値を創造するための「関係性をつくる」基盤づくりのコーディネーションへと、変化しつつあることを感じた一年でした。対等な立場で研究会やディスカッションを重ね、相互理解を促し、越境的協働により、課題解決に導く。そうした動きを担うセンターへと、変化の兆しがみられた一年だったように思います。

1

2022年度の活動PICK UP

コミュニケーションのデザイン

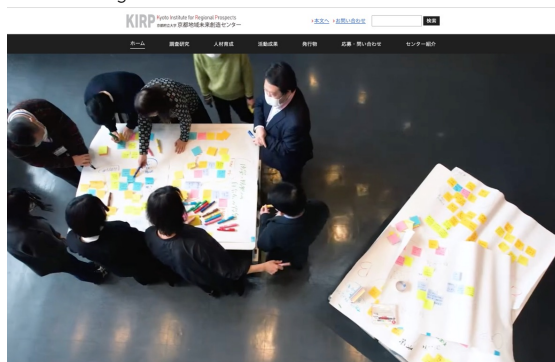
情報発信



▲WEBサイト 活動成果検索画面



▲KIRP Instagram



▲KIRP WEBサイト

2022年度は、センターおよび本学の地域貢献活動の成果発信機能のいっそうの強化に努めました。

学内の教員にも呼びかけ府大ACTRの研究成果の広報素材を集める体制を整えました。

研究成果に関する発信の回数を増やすだけでなく、2020年度に開設したセンターのホームページとSNS（Facebook, Instagram, Twitter）とのリンクや、京都府や関係機関（京都府立京都学・歴史館など）のSNSとの相互フォローを通じての拡散など、情報流通のプラットフォームとしての改良を行いました。

YouTubeを使った動画配信もはじめ、当初取り込めなかった層に情報発信を行うなど、さまざまな層に間口を広げています。



▲KIRP Facebook

▼日程

事前学習（オンライン） | 2022年10月15日（土）10時～12時

フィールドワーク（合宿型プログラム） | 10月29日（土）～30日（日）

▼対象

自治体職員、NPOや民間団体等の職員、地域づくりに取り組む実践者、支援者、学生等

▼参加者

11名（自治体職員6名、まちづくり支援者1名、大学研究者1名、南山城村の地域キーパーソン4名）

▼プログラム内容

フィールドワーク、参加者・講師とのワークショップ、地域キーパーソンとのディスカッション

▼訪問先

旧田山小学校/中窪製茶園/南山城村移住交流スペース「やまんなか」/道の駅「お茶の京都みなみやましろ村」/南山城村文化会館

▼メンター

森本 健次さん（株式会社南山城 代表取締役）

▼地域キーパーソン

中窪 良太郎さん（中窪製茶園 5代目）/岸田 いずみさん（南山城村役場産業観光課）/兜岩 知也さん（グラフィックデザイナー・カメラマン）

▼運営：

全体モデレーター | 川勝 健志（公共政策学部教授・KIRPセンター長）

モデレーター | 上杉和央（文学部准教授・KIRP統括マネージャー）/鈴木暁子（KIRPコーディネーター）



▲上/下 場づくりLabo in 南山城村

本センター主催事業「場づくりLabo（まちづくり人材育成プログラム）」は、各地に出向いて、地域づくりのキーパーソンとの対話やフィールドワークを通じて地域づくりを問い直すプログラムです。近年、地域づくりの文脈で、場づくりに関心が高まっています。全国各地で、地域内外の人や組織のつながりを再構築し、人と組織の相互作用によって新しい活動や価値を生み出し、課題解決につながるような活動が生まれています。そこで、本センターでは、それぞれの活動や事業を担う「人」に着目し、地域づくりの現場に出向いて、「まちづくり」そのものを問い直すプログラムを開発しています。

2022年度は、過疎化が進むなかで住民が住み続けるためのむらづくりで注目を集める、奈良、大阪、三重の境にある京都府の南山城村を訪問しました。南山城村では、2017年に「道の駅お茶の京都みなみやましろ村」がオープンし、村の特産品である宇治茶のブランド化や新鮮な農産物を求める人が訪れ、来場者数は年々、増加しています。今回は、道の駅を拠点とした「生業」や「生きがい」創出のための取り組みと地域づくりとの関係性について、実際に、地域をあるき、南山城村の地域づくりのキーパーソンとディスカッションを行いました。

本事業の主眼は「人」です。ただ、それを「場づくり」の「Labo」でおこなうことが特徴です。つまり、単に個人の成長に焦点を当てるのではなく、「Labo（研究室）」で起こるような予想もしていない化学反応に注目しています。参加者のアンケートからは、地域キーパーソンとのやりとりや話し合いに対する評価が高く、南山城村が持つ場所としての魅力に触発され、相互作用によって、参加者にも変化が起こったことが伺えます。

あわせて、人材育成プログラムの効果について、参加者自身の成長に留まらず、地域キーパーソンや地域社会への影響や、学内へのインパクトについてどのように評価をしたらよいのかを考える研究会を立ち上げ、3回開催しました。



▲場づくりLabo in 南山城村 集合写真



▲場づくりLabo in 南山城村 フィールドワーク



▲場づくりLabo in 南山城村 グループワーク



▲場づくりLabo in 南山城村 レクチャー



▲右 森本 健次さん（株式会社南山城 代表取締役）



▲場づくりLabo in 南山城村 フィールドワーク



▲左から4人目 中窪 良太郎さん（中窪製茶園5代目）中窪製茶園フィールドワーク

このページの写真撮影： 兜岩 知也氏

調査研究

KIRP教職員を中心に取組んだ調査研究を紹介します。

「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』(CCAC)構想」に基づく自治会活性化の実現に向けた「自治会活性化ビジョン」を活用した自治会の分析・調査及びICT化を含む実施施策の検討

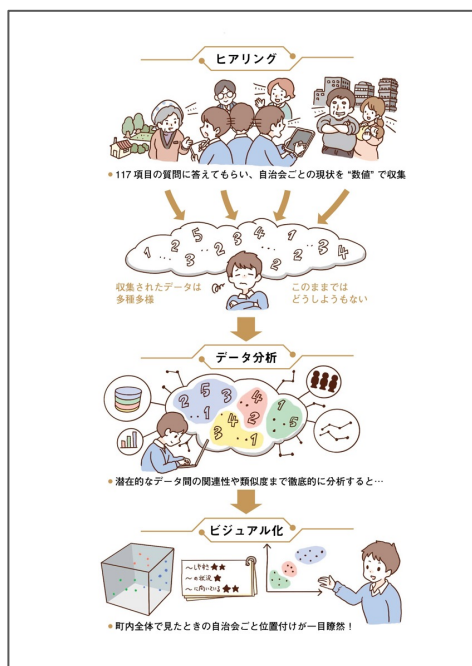
地域 | 久御山町〈受託事業・府大ACTR〉

地域づくり

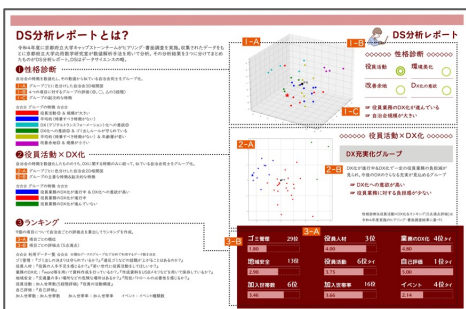
X

データサイエンス

住民協働



▲自治会DSカルテ説明イラスト



▲自治会DSカルテ説明



▲自治会DSカルテのための自治会ヒアリングの様子

2021年度と2022年度の府大ACTRの採択を受け、久御山町から要請のあった、自治会の活性化に取り組みました。このACTRは公共政策学研究科の大学院授業（キャップストーン）の文理融合メンバー（生命環境科学研究科からも受講参加）と、京都地域未来創造センター職員、そして久御山町職員が協働で実施しました。

2021年度は、町内1000人アンケートを実施したほか、自治会のヒアリング、先進事例調査などを行い、「久御山町自治体活性化ビジョン」を策定しました。

ビジョンでは、① 自治会加入率の向上、② 自治会運営の担い手不足解消、③ 自治会役員の負担感軽減、④ 自治会活動の情状発信不足、⑤ 防災・減災への対応、⑥ 防犯への対応、⑦ 環境美化とごみ処理対応、⑧ 高齢者の見守りと地域参加、⑨ 若者の地域参加と子育て支援、などの項目についてビジョン提案を行い、自治会長さん達が集まる「自治会サロン」で報告しました。

2022年度は、全38自治会のうち32自治会のヒアリングを実施し、そのヒアリング結果のデータをもとにデータサイエンス（DS）による自治会の数値解析を行い、自治会の類似性や属性・課題等の共通性を解析しました。解析結果と、ヒアリング等で得られた特性などを自治会毎に整理し、今後久御山町のHPなどで公開できるような「自治会DSカルテ」を作成しました。また、自治会のDX化が進む愛知県犬山市と岡山県岡山市にヒアリングを行い、今後の自治会カルテのDX化と、自治会活性化の参考となる調査を行いました。

今後、久御山町では、自治会DSカルテのホームページ公開と、自治会DX化を推進していく予定です。

研究体制：

岩崎雅史（生命環境科学研究科准教授）

青山公三（名誉教授）

前川由衣（センター研修生）、武内奎太（生命M1）、

飯田伶耶（公共M1）、東佳佑（公共M1）、百々健人（生命B4）ほか

精華町次期総合計画策定支援業務

地域 | 精華町 〈受託事業〉

地域づくり

×

データサイエンス

住民協働



▲報告書

2023年度からの10年計画となる第6期精華町次期総合計画づくりの支援を行いました。2年目となる本年度は、本学生命環境科学研究科応用数学研究室（岩崎雅史准教授・本センターデータサイエンスアドバイザー）の協力を得て、精華町に関するSNS（主にTwitter）での情報収集と分析を行いました。

具体的には、精華町のランドマーク（17件：けいはんなプラザ、けいはんな公園、鉄道の駅や公共施設等）の印象評価を行い、投稿者がランドマークに対してどのように感じているかをツイート内容から読み取り、数学の分析手法を用いて、5段階で数値化し、現状把握を行いました。データサイエンスの急速な発展により、自治体の政策づくりにおいて、エビデンスに基づく思考や将来予測の重要性が高まっているなかで、双方型の広報公聴活動や統計思考による政策づくりや基礎データとしての活用が期待されます。

研究体制：

川勝健志（公共政策学部教授）

岩崎雅史（生命環境科学研究科准教授）



▲セイカカフェラボの様子

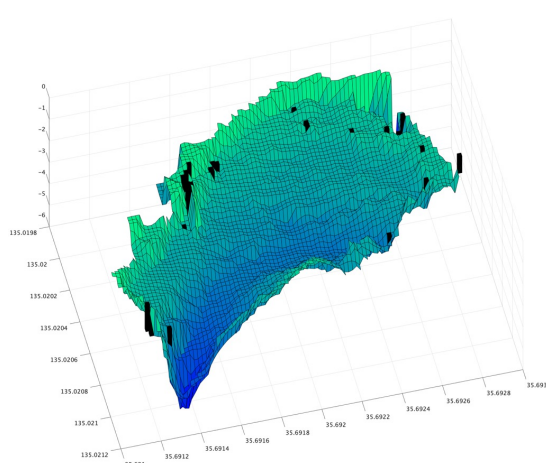
京丹後の海の魅力あるブランディングに向けた海水浴場の調査・分析およびデジタルアーカイブ化

地域 | 京丹後市 府大ACTR

地域づくり

×

データサイエンス



▲八丁浜海水浴場の海底3Dマップの高精細版



▲ SUPも楽しめる夕日ヶ浦



▲風光明媚な蒲井浜

2021年度は海水浴シーズンを除くとビーチには我々だけという状況が多かったのですが、2022年度は観光のお客さんが戻り始め、いろいろとお話する機会が増えました。その中で研究内容を充実化させるヒントになったのがシロギス釣りで箱石浜海水浴場に來られた方々との会話。箱石浜海水浴場は投げ釣り党には憧れの尺ギス（30cm超の大型ギス）が狙える有名スポットで、隣接の葛野浜海水浴場も全日本サーフキャスティング連盟の全国大会が開催されるなど、子どもの頃の記憶が蘇り、この一帯は投げ釣りのメッカであることを思い出しました。実際に箱石浜海水浴場のシモリ（岩礁エリア）付近では大型の生息を確認できましたが、反面、シモリから離れるとキスを目にすることが少なくなるため、シモリ付近を攻められなければよい釣果は望めません。つまり、釣り人たちは箱石浜海水浴場特有のシモリの入り組み方をきちんと頭に入れ、かつ正確にキャストする必要がありますのですが、データがないまま箱石浜海水浴場を攻略するのは相当難しいと思われます。

というわけで、2022年度は海水浴だけでなく釣りでも有用となるレベルの海底3Dマップの作成に時間をかけて取り組みました。上段の図は八丁浜海水浴場の海底3Dマップの高精細版であり、黒の部分はシモリを表しています。京丹後市内の宿泊施設であればこのような海底3Dマップが閲覧できるような仕組みも今後考えていく予定です。

研究体制：

岩崎雅史（生命環境科学研究科准教授）

新庄雅斗（同志社大学理工学部助教）ほか

京田辺市「住民協働型まちづくり協議会」の在り方提案

地域 | 京田辺市 府大ACTR

地域づくり

×

データサイエンス

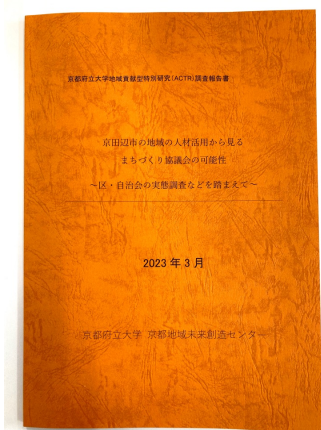
住民協働

「自治会等」を補完する役割として「まちづくり協議会」の設立が全国的に進んでいます。しかしながら運営上の課題は多く存在し、なかでも「人材不足」に関する懸念は大きいものがあります。京田辺市においても今後「まちづくり協議会」を展開していく予定となっていますが、「人材不足」をどうするかについては、避けては通れない論点となると考えられます。

そこで、京田辺市において地域人材が存在するのか実態調査で明らかにした上で、まちづくり協議会において地域人材が有効に活用されるためにはどうすればいいか提言することを目的とし、研究活動を行いました。

調査方法として①18歳以上の市民2,000人を対象とした市民アンケート調査②三山木地区の区長・自治会長11名を対象としたヒアリング調査③先進自治体である三重県名張市・兵庫県宝塚市を対象にヒアリング調査を実施しました。

そしてこれらを踏まえ、調査報告書「京田辺市の地域の人材活用から見るまちづくり協議会の可能性～区・自治会の実態調査などを踏まえて～」を作成しました。



▲報告書

研究体制：

今堀誠弥（センター研修生）
 駒寄忠大（公共政策学部准教授）
 川勝健志（公共政策学部教授）
 古池郁美（生命M2）ほか



▲ヒアリングの様子



▲ヒアリングの様子

調査研究

京都府立大学地域貢献型特別研究（府大ACTR）

2004年度から始まった本学の地域貢献の中核となる
京都府立大学地域貢献型特別研究（府大ACTR）につ
いて紹介します。それぞれの成果報告は本センターの
ウェブサイトでも検索できます。

地域貢献型特別研究(Academic Contribution To Region : 以下府大ACTR)



▲ガイド養成トレッキングの様子
(研究代表者：横内裕人教授(文))



▲物産展への取材の様子（研究代表者：山口美知代教授(文)）

▼木材検収アプリの実演をしている様子



京都府内の地域振興や産業・文化の発展等に貢献することを目的として、本学の教員を中心とする研究プロジェクトチームが、府内各地の自治体、NPO等から提案いただいた地域課題の解決に取り組む研究である、地域貢献型特別研究（府大ACTR）を実施しています。

2022年度は、府内各地の自治体、NPO等から53件の提案があり、これらの提案に対応する研究計画28件が提出され、審査の結果、最終的に19件の研究計画が採択されました。

府大ACTRでは、地域の関係者と協働して調査・研究を行い、時には本学の学生も参画しながら、地域の多様な課題の解決に取り組んでおり、2022年度には、文学部では古墳等の文化遺産を地域づくりに活かす取組みに関する研究、公共政策学部では自治会の活性化やまちづくり協議会の可能性に関する調査、また、生命環境科学研究科では府内農産物のブランド化のための研究等、本学の人文・自然・社会科学の知を活かした様々な調査・研究が府内各地で行われました。

▼強度推定アプリを活用し、ヒノキ材の強度性能評価（非破壊での強度測定等）をしている様子
左写真・下写真
(研究代表者：神代圭輔准教授(生))



2022年度府大ACTR採択結果

研究課題	提案者	代表者
過疎化が進む地域における文化遺産の地域資源化に向けての実践的研究 ―京丹後市久美浜町須田区からの発信―	京丹後市文化財保護課	諫早直人 准教授(文)
無病長寿の霊果といわれるムベ果実の食品機能性解析とそれを活用した地域おこし	元気村 NISHIGAKI AKB21MB	中村考志 教授(文)
京都府北部のMALUI連携による文化資源を活かした地域づくり	福知山市文化・スポーツ振興課、 舞鶴地方史研究会	東 昇 教授(文)
城陽市特産物の文化的・文学的・国際的イメージの調査とそれを活用したプロモーションについての研究	城陽市まちづくり活性部	山口美知代 教授(文)
由良川がつなぐ海と森の京都－宮津市由良地区と綾部市上林地区の文化資源の発掘と活用－	由良神社総代会、 奥上林地区自治会連合会	横内裕人 教授(文)
京田辺市「住民協働型まちづくり協議会」の在り方提案	京田辺市市民参画課	駒寄忠大 准教授(公)
「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』(CCAC)構想」に基づく自治会活性化の実現に向けた「自治会活性化ビジョン」を活用した自治会の分析・調査及びICT化を含む実施施策の検討	久御山町企画財政課	駒寄忠大 准教授(公)
西陣織の色彩特性が認知・行動に及ぼす潜在的影響に関する研究：雅色（みやびいろ）は、良いふるまいを促進するか？	有限会社小林美術科学	石川敦雄 准教授(生)
スマート農業を利用した鳥獣害軽減方法の確立と果樹栽培高度化技術開発	京都府丹後農業改良普及センター、京都府 農林水産技術センター農林センター	板井章浩 教授(生)
京都在来ブドウ品種‘聚楽’の復活栽培に向けた技術開発と新たな利用方法の開発	京都府農林水産技術センター農林センター	板井章浩 教授(生)
京丹後の海の魅力あるブランディングに向けた海水浴場の調査・分析およびデジタルアーカイブ化	京丹後市観光振興課、海業水産課	岩崎雅史 准教授(生)
木材流通京都モデルの構築に向けたICTを活用した森林資源情報の把握と流通システムの社会実装に関する研究	京都府立林業大学校、綾部市林政課、南丹市 農山村振興課、京都府森林組合連合会、 京都府林業振興課、京都府立北桑田高校、 京都府農林水産技術センター農林センター	神代圭輔 准教授(生)
「洛いも」の地域ブランド力強化に向けた褐変抑制・低温耐性系統の作出および普及戦略の構築	精華町産業振興課	伊達修一 講師(生)
城陽市の花「花しょうぶ」の生産現場で多発している土壌伝染性病害の防除に向けた調査研究	JA京都やましろ城陽花き部会	辻元人 講師(生)
大江山連峰の地質と地形を生かした自然循環農業の町づくり	与謝野町農林課	中尾淳 准教授(生)
北山杉・京銘竹等の京木竹材の標準化（規格化）―伝統工芸技術継承を含めた科学によるトップブランド化―	京都木材協同組合、 (株)アドプランツコーポレーション	古田裕三 教授(生)
府内環境を脅かす放置“京竹(きょうちく)”，和紙にならない“三桎(みつまた)”の化学的利用再考	池姫竹炭組合、 (有)やくの農業振興団	細矢憲 教授(生)
京都府産宇治茶の安定生産と独自性確保に貢献する生育予測研究と宇治茶品種の遺伝解析	和束町農村振興課、京都府茶業会議所、 京都府農林水産技術センター農林センター	森田重人 准教授(生)
京都府希少農作物が持つ有用成分を生かしたブランド化推進と商品開発	城陽市農政課、 京都府農林水産技術センター農林センター	森本拓也 講師(生)

(文) 文学部、(公) 公共政策学部、(生) 生命環境学部



▲報告会のチラシ



2022年度府内各地での報告会

毎年、調査を行った地域で研究成果報告会を行っています。

- 「与謝野町温江地区の棚田における土壌と稲の関係」
研究代表者：生命環境科学研究科 中尾 淳 准教授
- 「地域資源としての湯舟坂2号墳Ⅱ
― 出土品研究の最前線 ―」
研究代表者：文学部 諫早 直人 准教授
- 「城陽市特産物の文化的・文学的・国際的イメージの
調査とそれを活用したプロモーションについての研究」
研究代表者：文学部 山口 美知代 教授
- 「京都府希少農作物が持つ有用成分を生かした
ブランド化推進と商品開発」
研究代表者：生命環境科学研究科 森本 拓也 講師

府大ACTRパネル展示

府民の皆様へ府大ACTRの研究成果を広く知っていただくため、2021年度の研究成果をポスターにまとめ、京都府立京都学・歴史館にて9月1日から30日までの間、パネル展示を実施し、延べ449名の方にお越しいただきました。また、パネル展示に併せて、関係図書や資料の展示、さらに、今年度は映像資料の放映も行い、ご好評いただきました。

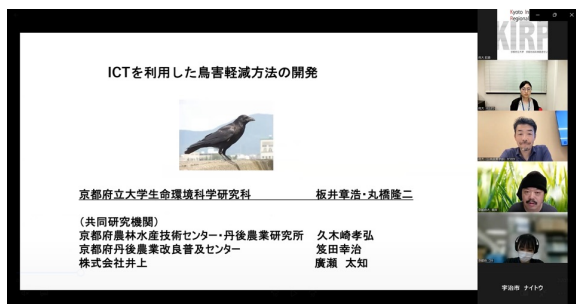


▲パネル展示の様子

ポケットセミナー(府大ACTR成果報告会)

2022年9月14日に、府内自治体職員の方を対象に、府大ACTR成果をご報告するポケットセミナーと、大学連携に関する意見交換会をオンラインで開催しました。大学連携担当課に限らず、広く参加を募ったところ13自治体から22名の参加をいただきました。

ポケットセミナーでは、生命環境科学研究科の板井章浩教授、文学部の諫早直人准教授、青山公三名誉教授より、大学の地域貢献の取り組みとして府大ACTRの研究成果をそれぞれご報告いただきました。



▲ポケットセミナーの報告の様子

精華キャンパス府大ACTR成果発表



▲成果発表の様子

京都府立大学精華キャンパスの教員が研究代表者である2022年度府大ACTRの研究成果について発表する報告会が2023年3月10日に開催されました。

報告会では「スマート農業を利用した鳥獣害軽減方法の確立と果樹栽培の高度化技術開発」や「京都府希少農産物が持つ有効成分を生かしたブランド化推進と商品開発」など計5テーマの研究について、2022年度においてどのような結果がみられたのかを発表されました。各先生方が、専門的な研究内容について、写真や図を用いてとても分かりやすく説明をされており、発表後の質疑応答では、府民の方から活発に質問がされて大変盛況な様子でした。

ふれデミックカフェ@KRP with京都府立大学



▲ふれデミックカフェのサインネージ

京都市リサーチパークが主催するサイエンスカフェ「フレデミックカフェ」に本学教員が登壇しました。本講演では、主に欧州と日本の使い捨てプラスチック削減の取り組みや施策をピックアップしつつ、今後の可能性を展望しました。

<Vol.5> 8/25(木) 16:30-17:30

「使い捨てプラスチックを減らす！～削減の取り組み事例と施策～」
山川 肇 教授（京都府立大学大学院 生命環境科学研究科）

ウェブサイトでの活動成果報告のアーカイブ化

2020年度にリニューアルした本センターのウェブサイトの改修を行いました。府大ACTRの研究成果の検索機能を追加し、アクセシビリティの向上を図りました。

市町村意見交換会～大学連携に関する意見交換会～



▲意見交換会の様子

自治体職員と本学職員で、地域連携の在り方について意見交換会を行いました。参加者からは「実際に府大ACTRに取り組んでいる教員や自治体職員の説明や意見を聞いて参考になった」「普段なかなか接する機会のない、大学教員や他市町村の職員との意見交換をすることができて良かった」といった感想をいただきました。府大ACTRに採択された提案者（自治体や地域団体、企業等）に対するアンケートや、府内自治体との意見交換会（年1回）などの機会を通じて、対応が可能な事項に関しては事業に反映させています。

人材育成

ポートランド州立大学との協定
場づくりLabo
市町村職員受け入れ

ポートランド州立大学

まちづくり人材育成プログラム（-Japanese Local Governance and Management Training Program -）にセンターの教職員から3名が参加しました。

本センターの国際交流協定先である、ポートランド州立大学公共サービス・実践センター（CPS：Center for Public Service）が主催する「まちづくり人材育成プログラム（Experience Portland While in Japan：Japanese Local Governance and Management Training Program）」の運営に関して、KIRPの教職員が協力をしています。

KIRPが主催するまちづくり人材育成プログラムへの助言に対して、CPSから助言を得るなど、CPSとKIRP教職員間の相互交流、スタッフディベロップメント（SD:Staff Development）の機会ともなっています。



▲オンラインの様子



▲広報

2022年度も、7月～8月にかけて、オンラインで計4回、開催されました。今年のテーマは「共生社会実現のための住民参加を考える」。

多様性Diversity、公正性Equity、包摂性Inclusionという3つの概念の説明。そして、その3つを推進するためのフレームワークを用いて、参加者同士のディスカッションやゲストスピーカーの話から、まちづくりを問い直すという構成です。

KIRPからは、今堀研修生（京田辺市派遣）がプログラムに参加するほか、川勝センター長と鈴木コーディネーターがボランティアスタッフとして運営をサポートしました。また、第4回では鈴木コーディネーターが多文化共生社会形成のNPO実践者の経験を踏まえて、ゲストスピーカーとして話をしました。

参加者や通訳、ポートランド市のゲストスピーカー、運営ボランティアスタッフも含めて50名近い人が作り上げてきたコミュニティ。コロナ禍での社会情勢の変化を踏まえて、日米のまちづくりの実践者・研究者がまちづくりについてディスカッションする貴重な機会となりました。

体制：

川勝 健志（公共政策学部教授）

鈴木 暁子（KIRPコーディネーター）ほか

市町村研修生受け入れ事業

KIRPでは、2016年度より原則2年間、自治体の若手・中堅職員を研修生として受け入れています。今年度は京田辺市職員が引き続き在籍し、新たに精華町職員1名を加えて2名体制となりました。

研修生は派遣期間中に、各自が設定したテーマに沿って調査研究活動を行うほか、KIRPの日々の各種事業にも関わり、多様な主体との連携・協働を行うための人的ネットワーク構築や対話のためのファシリテーション実践、派遣元自治体と本学をつなぐ調整・コーディネートを行っています。このように研修生はセンターを支える中核人材として活躍しています。

大学というフィールドで、自身の見聞を広げるだけでなく、外部のパートナーとの協働やプロジェクト運営を通じて自治体職員としての立ち位置やマインドを問い直す機会ともなっています。



▲フィールドワークの様子



▲ヒアリングの様子



▲ACTR採択者交流会の進行の様子



▲場づくりLaboのグループワーク



▲場づくりLaboのグループワーク

大学連携研究事業



▲左から京田辺市長・今堀さん・川勝センター長



▲今堀さんを送る会



▲学長×市長対談の様子

▼今堀のコメント▼

京田辺市から派遣され、2021年度より2年間京都地域未来創造センターの研修生として様々な研究活動に参加させていただきました。

ある時は自治会長さんたちのワークショップのファシリテーターを担当したり、ある時はアメリカ・ポートランド市のまちづくりについて現地の人とリモートでディスカッションしたり、ある時は他県に出かけてフィールドワークをしたり・・・このように市役所ではなかなか体験できないようなことをたくさん体験させていただきました。

なかでも2年目に2022年度府大ACTRにおいて、京田辺市のまちづくりに関して主体的に研究活動させていただいたことは、今後の公務員人生においてかけがえのない大きな糧となりました。

ここまで充実した研修生活を送ることができたのも、KIRPメンバーをはじめ、大学関係者の皆様に支えていただいたおかげです。2年間本当にありがとうございました。

▼参考：京田辺市との連携実績▼

- ・京田辺市と京都府立大学の包括協定締結（2022年3月）
- ・京田辺市長と京都府立大学学長の対談（2022年8月）
- ・子どもを対象としたSDGsを学ぶ料理教室事業（2022年9月～10月）
- ・小学生を対象とした地域学習授業（2022年11月）
- ・小学生のキャリア教育事業（2022年11月）
- ・審議会等の委員選出における教員への連絡・調整（通年）

組織体制

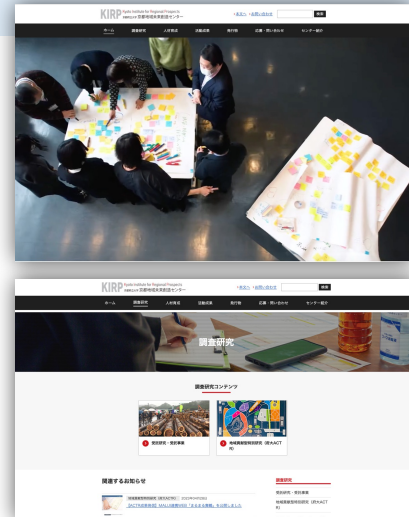
センター長	川勝 健志	公共政策学部教授
副センター長	宮藤 久士	生命環境科学研究科教授
統括マネージャー	上杉 和央	文学部准教授
データサイエンスアドバイザー	岩崎 雅史	生命環境科学研究科准教授
連携推進員	岸 泰子	文学部准教授
	玉井 亮子	公共政策学部 准教授
	平野 朋子	生命環境科学研究科准教授
	田中 俊一	生命環境科学研究科准教授
シンクタンク (調査研究等)	企画調整マネージャー	駒寄忠大 公共政策学部准教授
	コーディネーター	鈴木 暁子
	研修生	今堀 誠弥 市町村研修派遣職員(京田辺市)
	研修生	前川 由衣 市町村研修派遣職員(精華町)
	コミュニケーションデザイナー	永田恵理子
企画課	課長	菱木 智一
	主幹	鍋岡 崇
	主事	高橋幸太郎

公式Webサイト <https://kirp.kpu.ac.jp/>

京都地域未来創造センターでは、調査研究の進捗や
成果報告、イベント情報などに関する情報に加え、
過去の調査研究の検索機能等もあり、便利なツール
としてお使いいただけます。



公式WEBサイト



SNS公式アカウント

京都地域未来創造センターでは
各種SNSにて公式アカウントを運営しています。



Twitter



facebook



Instagram



ニュースター

創設時より発行を続けている広報誌。
調査研究の進捗や、イベント情報など
掲載しています。



ニュースターバックナンバー



